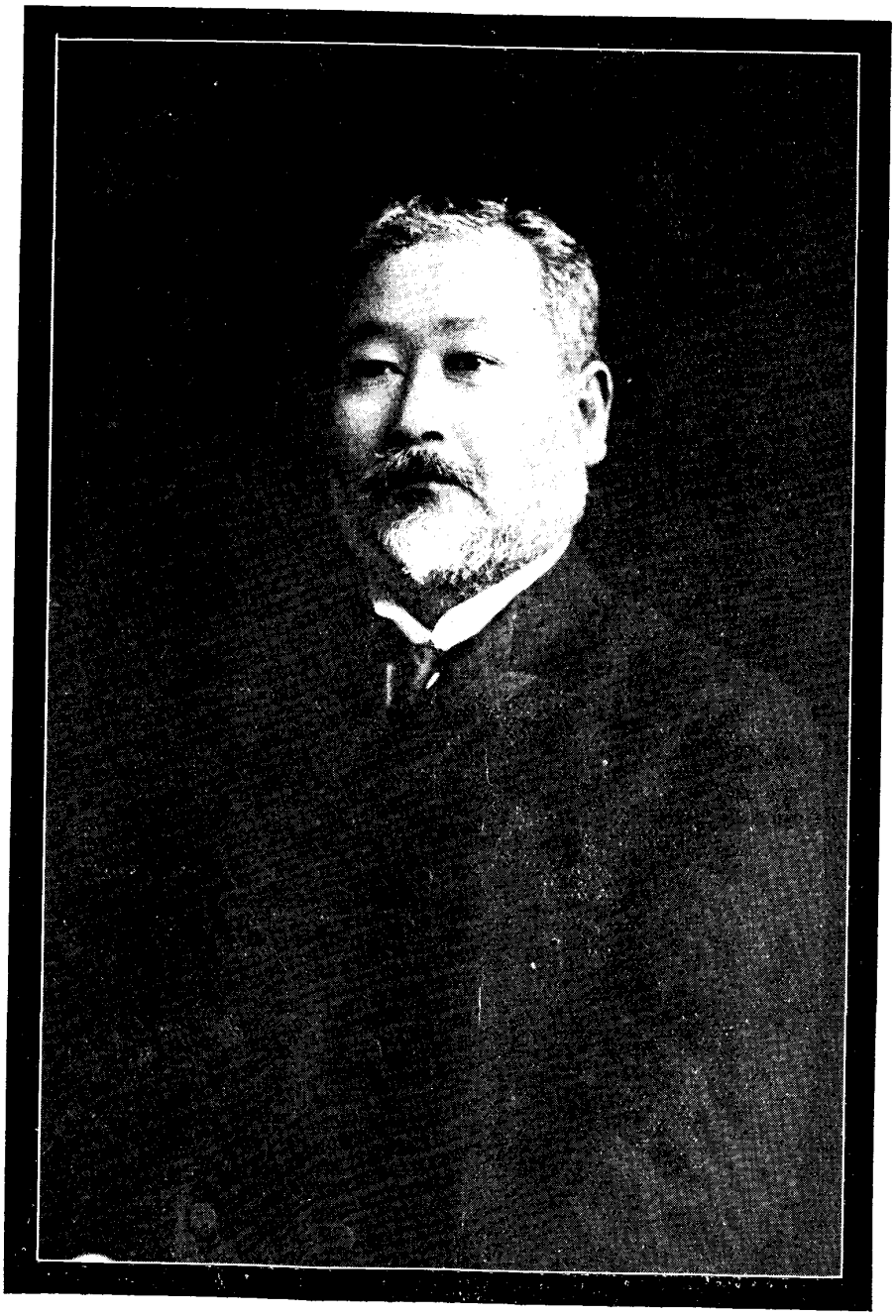

故工學博士大島道太郎君小傳

故工學博士大島道太郎君は明治鑛業の鼻祖たる大島高任翁の長男にして萬延元年を以て巖手縣盛岡に生れ幼にして穎悟絶倫たり明治三年八月大學南校に入り十年四月東京大學理學部採鑛冶金學科を修了し同年十二月獨逸國に留學し撒遜州のフライベルク鑛山大學に入り十四年十二月同大學を卒業し冶金工師の學位を受け十五年二月歸朝す時に年甫て二十三歳なり君歸朝後東北地方に於ける諸鑛山の開發に從事し泰西の斬新なる學術を應用して採鑛、選鑛竝に製錬に關する諸種の設計を爲し我鑛業の面目を一新せり二十三年二月宮內省御料局技師に任せられ生野支廳に赴任し同鑛山の設備改良に努力し又同支廳附屬大阪製錬所の創設せらるゝや君其の所長と成り計畫を完成せり二十四年八月工學博士の學位を受く二十九年六月製鐵所技監に任せられ技術全般を統轄す同年九月歐米に差遣せられ製鐵工場の設計並に諸機械の注文を了し三十年九月歸朝す三十三年九月製鐵所の事業擴張に關して再ひ歐米へ出張し翌年四月歸朝す三十六年十月職を辭す四十一年二月東京帝國大學工科大學教授に任せられ冶金學講座を擔任す大正三年二月休職を命せられ支那漢冶萍煤鐵廠鑛有限公司最高顧問技師に聘せられて彼地に赴き同公司の技術を統監す十年十月任地大冶に在りて病を得治療の爲め漢口に赴き十一日夜遂に同地に薨す齡六十二、君頭腦明晰學識深遠獨り採鑛及冶金學に於て其の蘊奥を極むるのみならず尙ほ機械、電氣、建築、土木等の諸學科に亘りて造詣深く博士の典型として同人の畏敬する所たり君か我鑛業界に貢献せられたることの多大なる枚擧に暇あらすと雖も就中生野鑛山及大阪製錬所に於ける工科大學に於ける八幡製鐵所に於ける支那漢冶萍公司に於ける功績等は其の最も顯著なるものにして殊に後二者に於ては各其製鐵所創業の元勳たり本會は今や評議員の一人たる此偉人を喪ふ痛悼禁する能はす噫